

種名	<u>ド ジ ヨ ウ</u> <u>Misgurnus anguillicaudatus</u> 
分類	ドジョウ科シマドジョウ亜科ドジョウ属
俗称	マドジョウ
形態的な特徴	形態は一般的な魚の形とは違い、円筒形の細長い形をしている。成魚では 10～15cm 前後である。体色は背側が暗褐色で不規則な斑紋を持ち、腹側が白色なのが一般的だが、色彩は変異が多い。口はやや下向きについており、その周りに 5 対のヒゲがある。雌雄の判別は容易で、胸鰭が大きく先が尖っている方がオスである。
分布	本州・四国・九州に分布するが、九州北部には生息していない地域がある。また、北海道と琉球列島のものは天然分布が疑わしい。
繁殖行動	産卵は 4～7 月頃の夜間に水田などのごく浅い泥底の水たまりのような所で行われ、卵は泥上にばらまかれる。産卵場となった水田などでは本種の幼魚が見られることもある。水質の汚染には強く水中の溶存酸素が少ないところでも腸呼吸で呼吸を補うことができる。ただし、鰓呼吸と腸呼吸の両方がおこなえる環境でなければ生きてはいけない。冬の間は泥の中で冬眠する。
生息場所	大河川よりもその支流や細流、平野部の水田、湿地、泥底の用水路などに多く生息する。付近には場整備されていないで、水路と水田の水の流れに障壁がないような形態の水田があればより上流域でも見られる。
食性	食性は雑食で、泥の中の有機物を泥と一緒に吸い込み有機物だけを漉し取って食べる。
生息環境への配慮事項	かつては日本各地の水田や水路に多く見られ、食用としても用いられた身近な魚類の一つであった。近年の農業形態の変化に伴い数を減らし、まったく生息していない水域もある。しかし、大小河川、湖沼付近では水田脇の水路や微少な流れなどに本種の姿を確認することができる。ある程度の有機的な水質悪化には耐えられるが、三面コンクリートの流れの速い水路や、河川からの細流、水田につながる部分に高い落差がある場所では産卵場への遡上が阻害されてしまう。そのため、本種の保全には水田などと水路の合流部の落差を低くすることなどの水系的なつながりを重視することが重要になる。
その他	
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	